



園庭のキンラン



例年より早い梅雨入りの予報もあり、園庭で遊べない日も増える時期ですね。しかし、屋外で遊ぶことの多い本園においては、室内で楽しく安全に遊ぶ術を学ぶ大切な機会でもあります。そのために、各保育室では室内環境を工夫しながら、子どもたちの動線に配慮したり、落ち着いて遊びや活動に取り組むことが出来るようにしています。

また、この時期は雨を好む生きものに思いを寄せたり、雨が私たちにもたらす恵みについて考えたりすることのできる時期でもあります。カエル池や棚田では、色々な種類のカエルが美声を響かせ、声に誘われ子ども達もカエル探しに夢中になっています。(右は棚田のシュレーゲルアオガエル)

5月22日はユネスコが定めた「国際生物多様性の日」です。本園では、多様な生き物(人間を含む)の立場に立って物事を考え、多角的に判断し行動していく価値観を身につけていく好機として捉えています。これは、本園を含む世界中のユネスコスクールが取り組んでいるESD(持続可能な開発のための教育)の一要素で、ようやく日本の社会にも定着しつつあるSDGs(持続可能な開発目標)に繋がる価値観でもあります。難しい言葉に聞こえるかもしれませんが、決して特別な事をしていっているのではなく、日本の幼児教育がこれまで大切にしてきた「他者への思いやり」「自然との関わり・生命尊重」などを、より明確にしたものです。

身近な自然をはじめとする様々な環境に関わる中で、子ども達は多くの「素朴な疑問」を抱きますが、正にそこから深い学びに繋がっていくことが幼児期の学び特徴です。「なぜ? どうして?」は幼児期の学びの出発点。この「なぜ?」に対して、周囲の大人が見守り、丁寧に関わっていくことで、子どもは興味・関心を深め、主体的に学ぶ姿勢が身につけていきます。ご家庭でもきっとたくさんの「なぜ?」が聞かれることと思いますが、どうぞお子さまの「学びの芽」を大切に育ててあげてください。

本園の園庭自然環境は、こうした「主体的、対話的で深い学び()」を促すことを大きな目的として構成しています。その代表的キーワードは、パンフレットやホームページにも記載している「ありのままの自然」です。そこには数え切れないほどの「本物の自然」との出会いがあり、たくさんの「なぜ?」が生まれます。このように日常的に見たり聞いたり触れたりする実体験がなければ、その生き物に対する興味・関心や正しい知識を持ってないことはもちろん、様々な生き物の立場に立って考えることもできません。日々の生活を通しての経験が、心の成長や価値観の形成に大きな意味を持ち、これからの時代に必要「持続可能な社会の創り手()」として豊かな人間性を育てていきます。

「主体的、対話的で深い学び」、「持続可能な社会の創り手」

…平成29年に改定された「幼稚園教育要領」に明記され、改定の核に据えられた考え。同じく改定された小・中学校の学習指導要領に繋がっていきます。

2ヶ月を経て…

年少さんは幼稚園に慣れ、GW明けの「幼稚園よりお家がいい」という退行現象も経て生活面も徐々に安定し、遊びも広がりを見せています。これまで頑張ってきた反動が見られたり、自我が出せるようになることで友達とのぶつかり合いも増えますが、こうして友達や集団を少しずつ意識しながら人間関係を深め、社会性を育てていきます。この2ヶ月間の日々の経験が自信となって、今後の幼稚園生活を充実させていく大きな礎になります。これまでのお子様の成長を認め、讃え、また励まして頂きますようお願い致します。



うさぎのふわちゃん 調理室見学 棚田でアメンボ探し 草原でチョウ探し

年中さんは広いクラスでお友達も増え、制服登園となるなど、年少の頃とは異なる生活環境が「お兄さん、お姉さんになった!」という自信や自覚を促してくれます。触れなかった虫に触れるようになったり、登れなかったアスレチックや櫓に登れるようになったり、、、「できること」が格段に増える年中さんにとって、1学期後半は遊びや諸活動に大きく挑戦していく大切な時期です。時には失敗や挫折を繰り返す場面もありますが、挑戦する姿勢を認め、暖かく見守って頂きますようお願い致します。



運動遊び



マイ図鑑調べ



カエル探しに夢中

年長さんはこれまで積み上げてきた経験をもとに、新たな課題に取り組もうとする意欲が大きな成長を促します。この意欲を維持し、高め、成長につなげていくためには、何よりも日々の安定した生活習慣が大切です。ご家庭におかれましても、十分な睡眠、早寝早起き朝ご飯、挨拶、整理整頓、ハンカチ・ティッシュなど、年少さんから続けている基本的な生活習慣を崩さずに、就学前の最後の1年を過ごして頂きますようご協力をお願い致します。



久しぶりのパット先生(ECC) アゲハの幼虫観察 ヤギ小屋のお掃除



春の遠足

学年ごとにおこなった遠足。保護者の方にはご参加頂けませんでした。子ども達は元気に歩き、春の自然を見つけながら遠足を楽しみました。年少は園内を一周しましたが、坂道、根っこの道など、不安定な道も遅く歩くことが出来ました。これからも森の散策を行っていきます。遠足の詳細はブログをご覧ください。



“おカイコさん”を育てます!!

本年もカイコを育てます。横浜のシルク博物館から頂いた500粒の卵が孵化し、小さなカイコの赤ちゃんが誕生しています。園庭の桑の葉を与えてお世話をし、最終的には糸をとり、遊びや生活に活かせる物を作ります!



幼稚園のムササビ

幼稚園の「森の広場」に棲むムササビ。NHKの「ダーウィンが来た」で、1月から継続的に撮影が行われています。現在、園児が設置した巣箱に2個体のメスが確認され、さらに1個体のオスが時々やってきます。これから繁殖期ですので、昨年、一昨年と見られたような子育ての様子がカメラで観察できるかもしれませんね! 子ども達も定位置に設置してあるモニターを見て、巣箱の中の様子を観察し「かわいい!」と言って興味を深めています。ここではまだお伝えできないような、正に「ありのままの自然」が収められており、子ども達と今後の展開を楽しみにしています。

また、子どものムササビへの興味・関心をさらに身近なものにするため、「ムササビ観察小屋」を作りました。今後、年長さんが小屋の色塗りをしていく予定です。



モニターで巣箱の中を観察

年少、年中さんも!

眠っているムササビ



廊下のポスター「かわいいね!」「ムササビ観察小屋」完成!

年少 栽培風景

年少さんは??の種蒔きをしました。一粒一粒を大切に種をまいて、水をあげるなどお世話をして育てています。さて何が育つでしょう?



年中 栽培風景

お部屋の前のクラスガーデンのお花にお水をあげたり、アサガオの栽培では畑の土を自分の鉢に入れ、種をまき、水をあげ、虫眼鏡で観察したりと、毎日お世話をすることで、植物を大切に育てようとする気持ちも育っていきます。



年長 田起こし、入水式

稲作がいよいよ本格始動します。田んぼの土を鉄の剣スコップで掘り起こし、空気を入れ、堆肥を混ぜ合わせ、水入れ。地下120mからの井戸水が棚田に注ぎ込まれ「冷たい!」の歓声や拍手が上がりました。育苗箱の苗も元気に育ち、棚田へ移動。職員で畦塗りをし、きれいな棚田が蘇りました。次は子ども達が「代掻き(しろかき)」をして泥を軟らかくします(泥遊びも兼ねます!)。



田起こし



入水式「冷たい!」



苗も元気に成長



棚田へお引っ越し



苗が並びました。



畦塗り→見ていた子ども達が砂場横で畦塗り遊び! 美しい棚田の完成!